

引力証明お預け？

敬和学園大 ニュートンのリンゴ

新発田市の敬和学園大がキャンパス内に植えている「ニュートンのリンゴの木」が植樹から六年で初めて実を結んだ。

イギリスの物理学者アイザック・ニュートンが実の落下を見て万有引力の法則の着想を得たリンゴの木はイギリス中部のニュートンの実家にあつた。この木から接ぎ木で育った子孫は世界各地に広まり、日本でも育てられている。

同大では「ニュートンのように世界をリードする人材を育て」と、秋田県果樹試験場から高さ約三十センチ

実結んで6年植樹 大半落下で台風

苗木を譲り受け、平成三年四月十六日の開学式で記念植樹していた。

これまでは白い花が咲くだけだったが、今年には約二・三層の丈に伸びた木に直径五センチなど大小二十個の実がなつた。引力ならぬ二十九日未明の台風で大半が落下し、六個を残すだけになったが、学生たちは「おいしいのかなあ」などと眺めている。

苗木を入手した同大の西村秀雄・人文学部助教授（科学史）は「残つた実は夢や励みになる使い方として、成績のいい学生やユニークな発表をした学生に与えることを考えている」という。

初めての実が日増しに膨らんでいる敬和学園大のニュートンのリンゴの木

